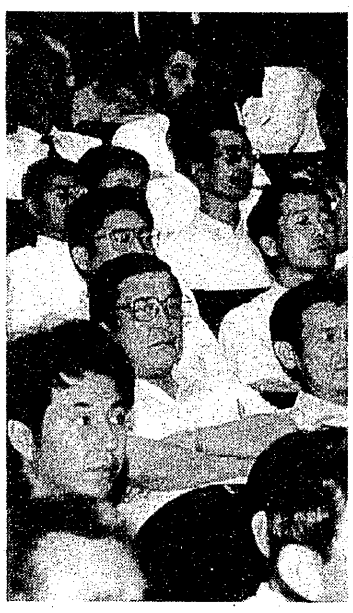
連合・政治アンケート

組合活動評価は2割
半数が支持政党なし



「組合活動に満足している組合員は一八％で、どちらともいえないが過半数。支持政党は五〇％が無しと答え、支持率二〇％割れの社・民に次ぎ自民が第三位」――連合が今年六月、官民の組合員約六千五百人を対象にした政治アンケートの調査結果である。

現在の政治・社会に不満が七割

いまの政治や社会について「満足」はわずかに三・六％にとどまり、七一％が「不満」と厳しく評価。官民、男女とも同様である。年齢別では青年層は「どちらともいえない」が四割を占め、三十五歳以降から「不満」が七割以上になる。

厳しい賃金評価 健康と老後に不安

組合員約二万二千人を対象にした「九二年生活アンケート」では、賃金に対する不満は七九％に達し、不満感が極めて強い。仕事と働きぶりについても「働き過ぎて疲れが翌日に残る」が五割を占め、三五％の人が健康に不安」と回答。住宅・教育費についての不満も多く、社会保障や老後の介護について悲観的な見方も多い。組合の力量強化が求められている。

組合活動の評価 満足はわずか二割

組合活動の評価では「満足」一八％、「どちらともいえない」五四％、「不満」二七％となり、満足派は五人に一人の割合にとどまる。官民別では、官公労は「不満」が三七％と高く、役員経験別では、過去に経験した人が三五％と高率となる。連合総研調査の『労働組合への期待と現実』によると、組合運営の問題として「組合員の声が反映されていない」がトップである。

半数近くが支持政党なし

四九・八％の組合員が「支持・好きな政党なし」と回答。年齢層では三十歳未満で七割前後にも達する。支持政党では、社会党一七％、民社党一一・三％、自民党八・六％、日本新党五・八％の順。民間では民社党が一四％の支持率となる。支持理由は、社・民両党とも「労組の支持」が七割前後を占め、政策支持より組織決定による消極的支持が特徴。「望ましい労組と政党の関係」では、特定政党を支持しないが四四％で、支持は三三％だった。

順風 逆風

震災対策

七月十二日夜発生した北海道南西沖地震は、地震に津波と火災で壊滅的被害を受けた奥尻島を中心に死者・行方不明二百四十人以上の犠牲者を出した。

被災者の救援も、遅れているようである。

日本の震災対策はどうなっているのだろうか。十年前に発生した日本海中部地震の教訓はどう生かされたのだろうか。

◎

現在の地震予知体制は、東海地域以外では実用化されていないというし、北海道の日本海北部沿岸の検潮所は稚内と函館、深浦の三カ所だけ。日本海北部で起こる地震にはノーマークに等しい。もし、奥尻島で連続地殻変動観測をしていれば、「前兆」がとれたに違いないと指摘する専門家もいる。

◎

ところが実察には、気象庁なども定員削減で仕事は増えるばかり。研究に専念すべき中堅幹部も、予算の獲得書づくりに追われて、研究どころではないらしい。

今年の地震予知対策予算は八十一億六千九拾万円。米軍への「思いやり予算」二千二百八十六億円の端数にも足りない。地震・火山・災害国日本としては、お粗末の限りだ。

◎

一九二三（大正12）年九月一日の関東大震災では、十四万人を超える死者・行方不明、全壊家屋約十三万戸、半壊約十二万六千戸、消失約四十五万戸、流失約九百戸の大被害を出した。

今、大都市部で大地震が起きたら……。

今年は関東大震災七十周年に当たる。その教訓さえ生かされているといえるのだろうか。

あほーだら

芝岡忠友衛

FOCUS 焦点 Q&A

非自民連立実現
シュート打てるか新政権

Q ついに政権交代が実現したね。

A 一九五五年の保守合同以来のことだから歴史的なことだ。でも細川連立政権の八党派は政策の不一致もあるし、喜んでばかりはいられない。

Q 連立は短期に崩壊するという人もいるけれど。

A 不安はある。例えば所得税減税については社公民と新生党など保守新党との間で調整がついていない。消費税でも、社公民とさきがけが現状維持なのに対し、他は税率アップに含みを持たせている。PKO活動に再び自衛隊を送ることにでもなれば、亀裂は決定的になるだろう。

Q 結局なにも期待できないということかな。

A そうとばかりは言えない。地方分権の推進や土木工事に偏った公共事業の配分の見直しなどは各党が一致している。製造物責任法（PL法）についても各党が法制化を主張してきた。自民党政治では実現できなかった生活者優先の政策は可能なはずだ。

Q 政治改革についても合意しているみたいだけど。

A 小選挙区制比例代表並立制の導入だろ。だけど並立制は海部内閣が提案し、廃案になった制度だ。社公民とも「民主政治を破壊する」と反対してきた。今回、並立制に同意したのは、連立政権を誕生させるための方策ともいえる。区割りなど具体案が出れば、各党の議員からまた反対の声が出る可能性もある。

Q ところで新生党の小沢さんの問題はどうなるのかな。

A 連立政権のシナリオライターは小沢氏だといわれる―裏から権力をあやつる手法は旧田中派・竹下派からの伝統だ。しかし、こんな「権力の二重構造」を許していては、非自民連立の存在意義も問われかねない。既存野党の奮起を期待したいところだね。

× ×

総選挙の結果は周知のとおり。一番大きな特徴は、社会党の惨敗と「新党」の躍進。「新党」がどんなものか定かではないが、「新党」と自民党の議席を合わせると、何と三百二十六（議席率六三・八％）になることに要注意。

ボウリング大会に参加
連合筑後地区主催に一チーム

七月三十日、連合福岡南筑後地域協議会主催の第一回ボーリング大会が三池ファーミリーレーンで、参加チーム二十九単産、百十六人が参加して行われました。

三池労組は二分会を中心に四人が炭労三池として参加しましたが、五年ぶりという人やはじめてボールをにぎった人もいました。

ゲームの結果

〈団体の部〉

一位 全金連合B 一三〇六点
二位 三井東庄A 一二六三点
三位 三池退職協B 一二四九点
十七位 炭労三池 一〇七七点

〈個人の部〉

八位 椛島 敬三 賞なし
四十位 吉岡倭文男 とび賞
七十位 椛島佐和子 とび賞
百十五位 荒牧 捷 ブービー賞

全員に参加賞がありましたが、私をのぞく三人の方はそれぞれ賞品を手にしました。

（三分会・椛島敬三記）

逮捕議員は辞職を
大牟田市議会が決議

今回の総選挙での地方議員の選挙違反が急増、「改革選挙」も旧態依然とした選挙手法だったことを裏付けた。急な解散で焦った結果、栗のまとまり易い地方議員に違反が集中したとの見方もあるが、氷山の一角とはいえ過去最高の割合だったとか。

福岡三区で当選した古賀誠派（自民）の買収・供応による公選法違反事件で逮捕されたのは県議一人、市議八人で、すでに起訴されている。

大牟田市議会は十三日、臨時市議会を開いて議員辞職勧告決議案を可決。古賀氏本人と同派選対本部長の山中被告に対する問責決議案も可決した。

決議は「責任は重大。市民に謝罪すべきで、議員辞職を問われる」と責任を追及している。

夏はいずこ……
異常気象つづく

長い梅雨が明けても、夏らしい日はあまりない。梅雨の雨量は平年の二倍以上だったというし、七月に三個もの台風が上陸したのも記録的だった。

鹿児島の水害もひどかったが、アメリカ中西部の大洪水も悲惨だ。中国やバングラディシュ、ネパールーインド北東部の豪雨でも大被害が出ているという。

確かに異常気象だ。

◎

異常気象の原因は、偏西風の大蛇行や、東太平洋の赤道周辺で海水温が高くなるエルニーニョ現象などが犯人ではないかという説があるが、その原因が何んであるかははっきりしないらしい。

エルニーニョは一九九〇年に発生して、三年も続いているという。三年も続くのは極めて異常だと専門家も言っている。

専門家にもはっきり分からないのだから、素人の出る幕ではないが、地球温暖化とか、フロンガスによるオゾン層の破壊とか、熱帯雨林の乱伐とか、人間のなせる業が影響しているのではないだろうかと心配になる。

もっと身近かな心配は、東北地方の冷害だ。異常低温や日照不足、長雨などが作物に影響する。通常の二倍、三倍と野菜の値上がりは目立っている。

青森県では、水稲が出穂期に達したのは八月十日現在で県全体の水田の面積のわずか〇・三％で、平年の同時期の五九％と極端な遅れ。近辺ではイモチ病が発生している。

「サムサノナツハオロオロアルキ」（宮沢賢治「雨ニモマケズ」）にならなければよいが。